



白鷗

種高同窓会報

主要内容

あいさつ／2ページ
先生・卒業生／4・5ページ
学校の様子／9・10・11ページ

NO.7 2004.4.1

発行／岩手県立種市高等学校同窓会
〒028-7912 岩手県九戸郡種市町第38地割94番地110
TEL 0194-65-2145 FAX 0194-65-5654
ホームページアドレス <http://www2.iwate-ed.jp/tan-h/>
編集／岩手県立種市高等学校同窓会会報編集委員会

潜水教育



昭和42年頃の潜水実習風景



現在の潜水実習風景



昭和30年頃の潜水実習風景

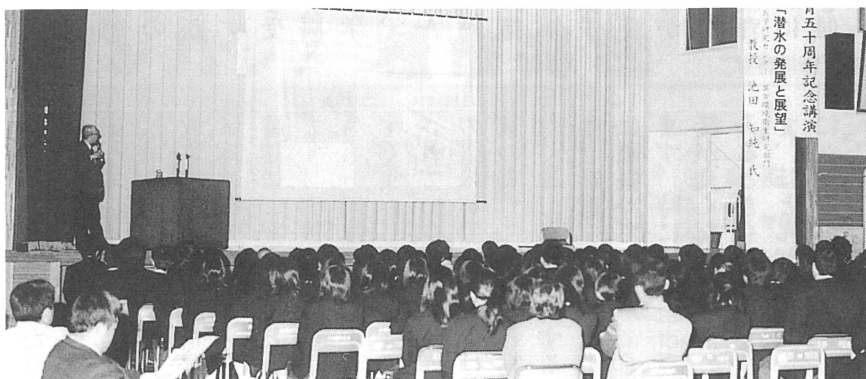
50周年

去る平成14年度、我が種市高校では1年課程の「潜水科」から始まり、「潜水工業科」、「水中土木科」、「海洋開発科」と続いてきた栄光ある潜水教育も50周年を迎えました。

明治30年、貨物船名古屋丸が種市村平内浜で座礁しました。その解体引き揚げのため房州（千葉県）から4名の潜水夫がよばれ、この潜水夫から技術を伝授されたのが南部潜りの始まりです。その後、「潜水夫」という国家資格を伴う職業にまで高めるために、今までのような見よう見まねの徒弟制度ではなく、科学的学問的根拠にたつた潜水士をつくる養成所を設置すべき」との声などから、潜水夫養成機関として「種市分校潜水科」が設立されることとなりました。

その潜水教育も50周年を経、今年度の種高祭1日目には、「記念講演会」が行われ、同日、歴代校長・旧職員15名を含む多くの来賓を迎え、「潜水教育50周年祝賀会」も盛大に行われました。

6ページから、海洋開発科元教諭の岡田光也先生に執筆していただいた潜水教育についての特集を掲載しています。

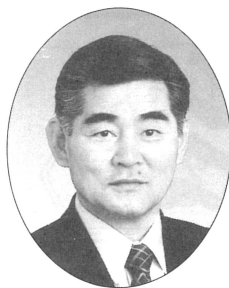


今年度の種高祭において、防衛医科大学の池田知純教授（一等海佐、医学博士）を講師として招き、潜水教育50周年記念講演会「潜水の発展と展望」を実施しました。全校生徒275名・職員その他に、来賓20名、種高祭を見に来られた方々も参加し大変盛況なものとなりました。



挨拶

同窓会長 学校長



同窓会長 玉澤 修
(昭和44年度卒)

会員各位におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

母校では去る3月1日に卒業式が挙行されましたが、それに先立って2月27日には同窓会入会式があり、ここで普通科78名、海洋開発科30名、計108名が新たに同窓会員に加わりましたことお知らせ致します。開校以来56年間で総勢五千三百余名の会員を数えるに至っております。

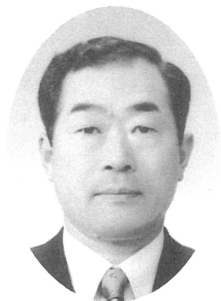
昨年は全国的に特にも東日本において10年ぶりの冷夏に見舞われ、さんざんとも言える年であったわけですが、本会の活動を振り返って見ると会員各位のご協力により滞りなく実施することが出来ました。総会は5月23日の本部種

市を皮切りに6月14日には久慈支部で、21日には東京支部で、7月11日には八戸支部でと全4ヶ所において賑わいの中で開催することが出来ました。大変ありがとうございます。今年も開催しますので皆さんお誘い合わせとのご参加をお願いいたします。総会というところか堅苦しいイメージがあり参加しようという気持ちになり難いこともあろうかと思いますが、本会のそのれの場合そういうことはなく総会とは名ばかりなもので、実際は交流会とか再会の場とか懇親会的色合いで和気あいあいとしたものです。まだ出席されたことのない方、しばらく出席されていない方は、最寄りの会場にお気軽にラフな姿で参加してみませんか。旧知の同級生、先輩後輩に思いがけず会うことが出来て、懐かしい昔のこと、それぞれの近況等の話に花が咲いてしまします。おススメです。

また会報については今年も多くの会員の手により刊行することが出来ました。素人発刊ですので決して素晴らしいものではありませんし、お腹の足しになるものでもありませんが、どこか一服の清涼剤的に楽しんでいただければ幸いです。

今後におきましても会報を通じ、母校の近況、会員、先方の近況等々、会員をつなぐカワラ版として発刊して参ります。終りに会員各位のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

子どもの教育は学校に



学校長 吉田憲一郎

同窓生の皆様方には、日頃より本校の教育活動に多大なご理解とご支援を頂き感謝申し上げます。特にも、このよ

うな経済状況下にも関わらず、多くの同窓生の皆様方が、熱き思いを母校に寄せていただいておりますこと、誠にありがたいことと思っております。さて、本校も創立以来すでに55年を経過し、地域の教育機関としての役割が重要になってきております。その中で、全国唯一の海洋開発科が潜水教育50周年を迎え、今年度の種高祭において防衛医科大学の池田教授を講師としてお招きし、記念講演会を実施いたしましたところであります。在校生の他、保護者、同窓生、旧職員の皆様も来校し講演を聴いていただき、改めて本校の潜水教育の歴史と果たす役割を認識したところであります。また最近の少子化傾向等を受け、県の高校再編成前期計画で本校は15年度、普通科1学級減となつておりましたが、

昨年度、町・同窓会・PTAの代表の皆様による県への働きかけにより、1学級減の措置は免れました。今年度も県教委に陳情し、もう少し様子を見ろということ、16年度も普通科2学級を保つことができました。今後、地元の高校として、実施している教育活動の状況や、成果を地域に公開し、ご意見・ご要望を伺いながら魅力ある学校づくりをすることが求められていることでもあります。全教職員、保護者・地域の方々、連携を緊密に保ちながら、取り組んでまいれる所存であります。今年度の教育活動において生徒達は、クラブ活動、校外模試、資格取得等良く努力し、成果を出しております。生徒達の持っている能力は様々で、目指す進路も多様ですが、明るく笑顔で挨拶が出来る生徒達が多く、先生方も丁寧に、根気強く指導にあたり、学校が学舎としての雰囲気醸し出していきます。当然と言われればそれまでですが、訪れる教育関係者、求人企業の方、保護者や地域の方々を、授業参観にご案内する時があります。突然の入室に生徒も先生も一瞬驚いた顔をしますが、すぐ集中し静かに授業が展開されていきます。海洋開発科の潜水実習の参観では、生徒達の実習に取り組む真剣さ、たくましさ感動するようです。最近、種市高校の生徒達は頑張っているとよく言われます。時には、種市高校の生徒が良くないと苦情の電話が入るときもありますが、総じて、ほとんどの生徒達は学習にクラブ活動に熱心に取り組んでおります。それぞれの生徒達の進路実現に向け教職員一同指導に力を入れてまいります。同窓生の皆様方には、今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力お願いいたしますとともに、率直なご意見等頂きたいと思っております。

種市高等学校の益々の発展と同窓生の皆様方のご健勝でのご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

総会報告

東京支部長 新保幸則

全国的に大変な不況が続く、先行き不透明な時代となっておりますが、このような時代だからこそ、同窓会の仲間との情報交換の場を持ち、交流を深めることが大切なのではないでしょうか。学校と社会の連携もまた大事であると思います。

東京支部もこれまで以上に参加員を増やしていくと同時に、

結束を強化し有意義で交流の深い場としていきたいと思っています。

同窓会の皆さん、共に頑張っていきましょう。



八戸支部 向谷地ひろ子

(旧姓佐藤)

潮風の中を巣立ち、はや、35年の月日が流れました。

さて、八戸市にも待望の種市高校八戸支部が結成され、時折の総会には懐かしい気持ちを抱きながら参加させて頂いている一人です。只、残念ながら女性の出席者が少ないので、もっと多くの方の出席を望んでおります。そして、女性同志のネットワークを広げ、お互いの情報交換の場になればと思っております。

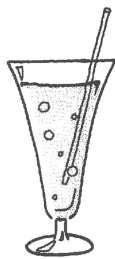
久慈支部長 播磨孝則

支部結成以来2回目の総会を6月14日に本部役員及び来賓出席のもとに開催いたしました。

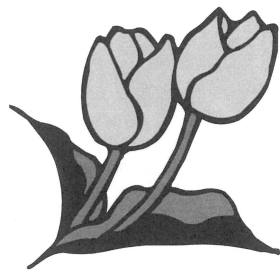
当支部は毎年1名でも多くの出席を願うため、過去種高在職の旧職員の方で現在久慈高、久慈商業、久慈工、久慈農林等各高校に赴任している先生方にもご案内しております。懇親会においては和やかに行われ、「出席してよかった」と言う声を励みに頑張っております。時間帯は総会会議の他、懇親会を1時間30分、2次会は1時間30分の日程で行い、会員の親睦交流を図り情報交換の場を提供しております。

本年は特に二次会も全員出席となり同窓会長の種市町長就任祝いも兼ね盛大な懇親会となりました。

過日東京支部総会へ出席したときであった、卒業以来33年ぶりに先輩、同級生と会った、学生時代の記憶がふつふつと甦えつつきて、これが「なつかしさ」と言うものかなと感じました。



又、卒業生の中から昨年、町長も誕生するなど、皆様の輝かしいご活躍を誇りに思うと同時に母校の益々のご発展を願っております。最後に私事になりますが、八戸市の六日町ライオンビルにて、ラウンジ ルコニューを営業して15年になります。種高同窓会の皆様、是非お立ち寄り下さいまして情報場として、ご愛用頂ければ幸いです。



また、久慈地区出身の後輩の同胞とも会うことができ、帰ってその人の両親に知らせたら我々はあまり会うことができないので、会ったときはいろいろと教えてやってくれと願われたことがあります。これがまた、情報交換である。

よって、会員各位には年に一回の開催ですので気楽な気持ちで出席をお願いいたします。



ガンバレ! 種市高校


頑張れ!! 種高
会津喜多方ラーメン 坂内
歌舞伎町店・歌舞伎町一番街店・三光町店・調布店

磯崎潜水
代表 磯崎元勝 (昭和52年度 水中土木科卒)

〒028-7914 岩手県九戸郡種市町第23地割27番地56
TEL 0194-65-2002 FAX 0194-65-2009

頑張れ 種市高校!!

種市町



岩手県九戸郡種市町第23地割27番地
TEL 0194-65-2111 FAX 0194-65-4334

あの先生は今

種市での思い出



上野三郎先生

在任：S54.4～S61.3
 教科：保健体育
 現在：山田町在住
 勤務先：宮古商業高等学校

七年間種市高校では、大変お世話になりました。赴任した時は新沼昭洋先生のお世話で町民体育館裏の住宅に住ませてもらいました。風の強い種市では体育館が風よけとなり大変暖かく、また、海辺の潮の香りがいっぱいいで心休まる住み心地の良い住宅でした。隣りの大井さんにも大変お世話になりました。子供が小さく、私しが忙しかった時には八戸の病院に何度となく送っていただきました。本当に有りがたい事です。種市での思い出は何と言ってもレス

リングです。その一つ、合宿中父兄の一人が、息子を退部させると意気込んできた事が有りました。理由は息子は小さい時から身体が弱く、レスリングはとても無理だとの事でした。私はこれに対して、息子さんが、一生懸命に取り組んでいる姿勢や、将来有望な選手である事など、いろいろ話して説得しました。この説得に対して、よく分りました息子をよろしくお願いしますと云って帰って行きました。このやり取りを隣りの部屋で聞いていた生徒が、「先生はう

まい、よく・・・さんのあつぱを納得させた」と変にほめてくれました。正直この生徒は最後まで頑張りクラブのキャプテンとして、よく部をまとめ、また、選手としても国体で3位になる実績をも残してくれました。本当に続けさせて良かったと思います。今でも会えば丁寧に挨拶されます。一番の思い出は団体初優勝の時です。会場の体育館から町をパレードして祝っていただいた時です。前任校で何度か優勝していた自分にも特別な感激が有りました。米国遠征にも2名の選手が選ばれました。この時も平内駅に消防署勤務の金沢さんが祝いの横断幕を張ってくれました。本

当に有りがたい事です。また、この当時天下を誇っていた隣りの光星学院に向いた事も思い出の一つです。余りの強さに、どこも近づくかなかった時に練習に行きました。それは聞くにも勝る、すごい雰囲気での練習でした。真似の出来る練習ではありませんが、得ることの大きかった練習訪問だったと思いま



す。何十年とレスリングを指導していますが、種市程、自分を一生懸命にさせ成長させてくれた環境はなかったと思います。良き生徒、良き応援者に恵まれた事も指導者として幸せな事だったと思います。前同窓会長の磯崎氏が、祝辞に一言(いっこん)申し上げますと言って「・・・レスリングの活躍は我々同窓生の誇りでもあります」と言って下さった事も本当に嬉しかった事の一つです。

ガンバレ！ 種市高校

★IDS 有限会社 岩本電機製作所 IWAMOTO
 代表取締役 岩本明佳 (昭和51年度 普通科卒)
 〒028-7901 岩手県九戸郡種市町第12地割60番地6
 TEL 0194-65-3930 (代) FAX 0194-65-3899

潜水工事一般 伊藤海事工業有限公司
 代表取締役 増田達也
 〒210-0861 川崎市川崎区小島町9-8
 TEL 044-266-2406 FAX 044-266-2408

株式会社 カンキョウ
 代表取締役 松橋武志 (昭和44年度 普通科卒)
 〒028-7913 岩手県九戸郡種市町25-19-2
 TEL 0194-65-2860 (代) FAX 0194-65-5336

★IDS 有限会社 イワテック電子 IWAMOTO
 代表取締役 岩本明佳 (昭和51年度 普通科卒)
 〒028-7914 岩手県九戸郡種市町23-53-1
 TEL 0194-69-1067 FAX 0194-69-1068

卒業生登場

私は今○○○

昭和52年度卒業

あし おい
芦生 幸雄

(株式会社 東北映像)

アンバー色の夢



久々に見た、第6号の同窓会報、怖い先輩の顔・・・いえ懐かしい先輩の顔が目にとび込んできました。高城先輩『押忍！オッス！私も高校時代、第7代の応援団長だった事を改めて思い出し、懐かしく思っています。

私は、中学時代から一つの夢(目的)が有り、種市高校に入学しました。そして、入学二日目のことです。先輩達との対面式で、いきなり怒鳴っている人がいます。何で怒られているのか分からず、驚きと共に頭の中から一瞬にし

て私の目的も消えてしまいましたが。高校生は大変だ。そんな想いだけで何日か過ごしました。その頃クラスから応援団を2人出さなければならぬと言う事で、何故か私に廻って来た。中学生の時も応援団だったので、何とかなるだろうと思ひ、初めての練習に行ってみると、何と、あの時怒鳴っていた人がその場にいました。またまた驚きと不安で目の前が真っ暗・・・この時から私の高校三年間が始まりました。太平洋に向かって、オッス！声が潰れて、押忍・・・先輩応援団が創り上げた種市高校のエールを先輩に繋ぐ為に取り組んだ練習の日々・・・練習が終わる頃、太平洋の白い波をアンバー色に染める夕日の美が幾たび励みになった事か、今でもその

風景が思い出として残っています。

応援団の役目も終り、何とか卒業出来そうだと思った時、やっと自分がこの学校に来た目的を思い出しました。私の夢は音楽ミキサーになる事でした。

東京へ出て昼は仕事、夜は専門学校と、やっと目標へのパスポートを手に入れる事が出来ました。最初の仕事はテレビドラマの撮影現場です。しかし、学校での勉強は全く役立たず。或る時は風になり、或る時は電柱になり、また或る時は地べたを這いずり回り、眠い目を擦り、気力で立って居るのがやっと。まったく夢とはかけ離れた世界でした。それでも『押忍』の日々を続けているうち、音楽番組にも携わることが出来、長年の夢を叶える事ができました。

現在は盛岡に在る映像制作会社、東北映像に所属しています。仕事内容は、イベントなどの音響が主な仕事です。また、最近では260インチのテレビ画面を積んだ大型移動車、テレビ中継車等を使用したイベント制作なども担当しています。テレビ番組制作では、スポー

ツ中継等も担当します。とくに高校サッカーの決勝戦は、毎年の中継している番組なので、いつかは母校、種市高校の校歌を、テレビ中継出来る事を楽しみにしています。種市高校生の皆さん、紙面上からですがエールを送ります。

広い緑の芝生、白い波、青い海、そこに響くかすれ声の校歌。そして会報で出会った先輩、先生、この文章を創ることで、26年前の思い出が、また新たな思い出となりました。アンバー色に染まった太平洋に向かい、オッス！



上段右より4人目

ガンバレ！ 種市高校

<p>国土交通大臣許可 特定建設業</p> <p>佐藤建設株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤 富也</p> <p>本社 九戸郡種市町39-39-35 ☎(0194) 65-4505</p> <p>八戸営業所 青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平5-10 ☎(0178) 88-1242</p>	<p>◎一般建築設計施工 ◎増改築施工 ◎土木工事 ◎</p> <p>有限会社 郷栄建設</p> <p>代表取締役 郷 勝美</p> <p>〒028-7915 岩手県九戸郡種市町15-91-2</p> <p>事務所 TEL・FAX 0194-65-3913 自宅 0194-65-3835</p>
<p>株式会社 三和海洋建設</p> <p>〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4774</p> <p>電話 045-932-4270</p>	<p>複写機、パソコン、OA機器、セキュリティ用品販売・保守</p> <p>コピーマシーン株式会社</p> <p>代表取締役 加藤 勝信</p> <p>岩手県九戸郡種市町23-27-72</p> <p>TEL 0194-69-1131 FAX 0194-65-6710</p>

潜水教育50周年

記念を迎えて

（思いで）

—— 海洋開発科元教諭 岡田光也 ——



昨年、10月に恒例の種高祭の行事の一環として行われた記念講演会に招待され、久しぶりに種市高校を訪れました。演題は『潜水の発展と展望』

と称し、講師は潜水工学、潜水医学を研究している著名な池田医学博士でありました。

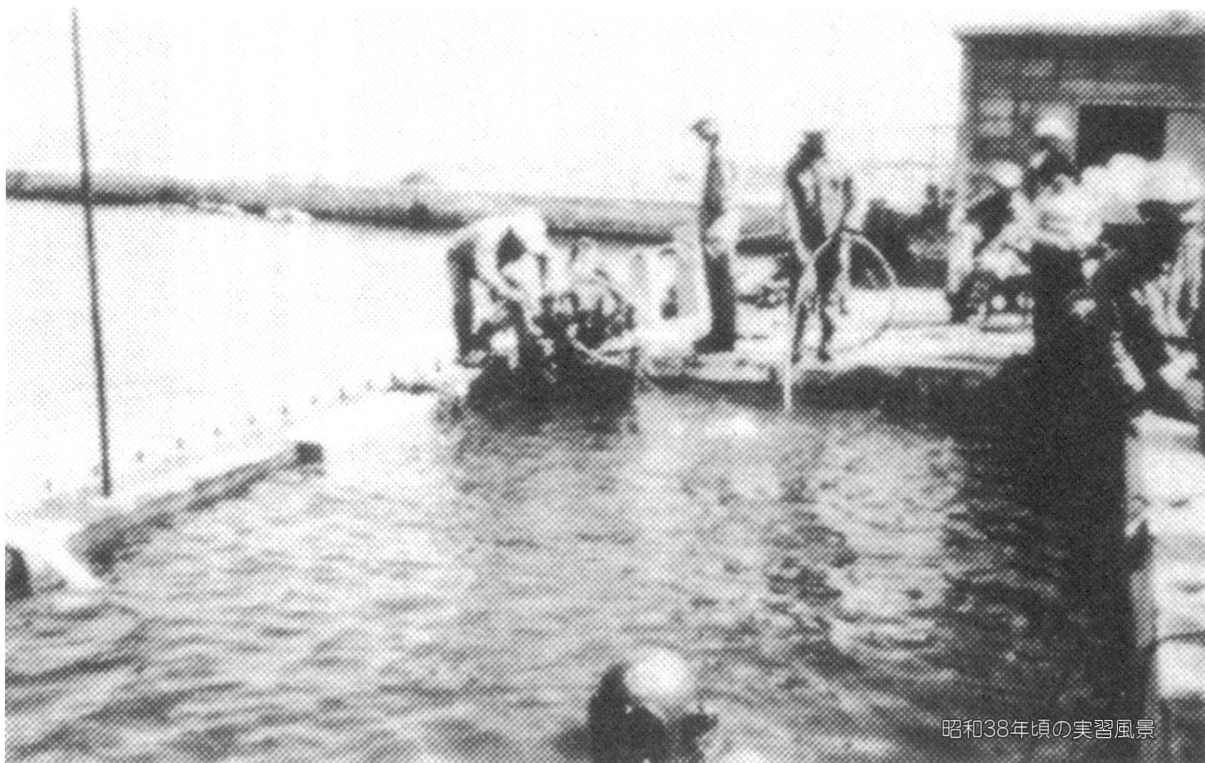
その内容は高度でありましたが、この講演中、生徒たちは私語をささやく訳でもなく身じろぎもせず、水を打ったように静かに聞き入っていました。枚数の関係もありますので詳しく書くことは出来ませんが、この辺から歴史を述べてみたいと思います。年代、沿革は省略し、四方山話（よもやまばなし）的雑談として思いつくまま述べていきたいと思えます。

昭和27年、1年課程の潜水科として設立されました。戦前から行われてきた徒弟制度

の廃止と、科学的な潜水教育、潜水病の原因追究など南部潜水の伝統の継承とともに町当局一丸となって県を動かし、誕生の産声をあげました。

設立されたといっても校舎はボロ校舎で、器具機材も少なく学校としての体裁は無くむしろ寺子屋と云っても間違いはなかったと思われれます。この体制は10年間続いたことになりました。この間続けてこられたことは、教える先生の情報熱と、生徒の熱意があったことだろうと思われれます。

昭和36年に旧労働省によって、高気圧障害防止規則が施工され、法制化されました。これで行くやく潜水士としての身分が確立した訳です。これまで職業細分に「潜水」という文字は無く、今では死語になっている車夫、馬丁、土方、人足があっても「潜水」



昭和38年頃の実習風景

の職業は無く、一般的に「潜水夫」あるいは「もぐり」という名称で云われてきました。後日、ある潜水会社の社長の

話を聞く機会がありました。戦後、潜水会社を設立しようとして申請したところ、「潜水」の名称は駄目と却下され、それ

でもと何とかと、お願いしたところ、ビル建設など高所専門で働く仕事に「鳶」という職業がある。逆に、低所（水面下）で働くのも「鳶」でいいだろう、ということでした。それを商標登録し、会社を設立したとのこと。今で云えば笑い話ですが、当時から役人の発想はこんなものだったと社長も苦笑しておりました。

昭和38年に産振法（国からの予算）が適用され、潜水科から潜水工業科と改称され、当時としては巨額な予算が付き、管理棟、実習棟が建設され、多数の器具機材が購入されました。歓声を上げたのは生徒より、むしろ我々職員だったかも知れません。

特殊な学科ということで、テレビ局、新聞社の取材が始まったのはこの頃からです。お陰で全国各地から意欲のある生徒が応募してきました。生徒の年齢差はあったもののお互い協力しあって、学校生活を楽しく居ただろうと思われれます。

すでにその時、我が町にも県立高校を、という町民一丸なつての要望運動が実現し、平内地区に新校舎建設の植音が高らかに響いておりました。昭和45年に、全日制種市分

校から、県立種市高等学校として独立しました。それに伴い1年課程の別科潜水工業科から、3年課程の水中土木科として科名を変更し、工業系

の学科として、新たに第一歩を踏み始めました。1年課程はあくまでも終了であり、中学の生徒にも高卒の学力と卒業証書を与えるべきという機



(昭和52年頃の実習風景)

運が盛り上がりつつある時期でもあり、時あたかにも戦後の第一次ベビーブームがちょうど進学のパークに達し、高校進学率が90%を大きく越えた時代でもありました。

水中土木科として普通教科、専門教科の教育課程も決定し、学校としての体制組織が充実展開されていきました。同時に、新しい実習船、実習棟、潜水プールの建設が終了し、在校生にとっても充実した実習内容ができ、専門技術を習得し実社会にでた卒業生にとっても大いに役立つだろうと信じております。

当時の種市高校の全校生徒は六百名を越す、県下でも中堅高校として隆盛を極めておりました。数名の大学進学生もできるようになり、又クラブ活動も盛んで、特にレスリング部、柔道部から優秀な選手を数多く輩出しました。選手達の意



(現在の実習風景)

欲もさることながら、指導に情熱を傾けた指導者、若い先生方が数多く在職しておりました。

創立以来50年にも及ぶ潜水教育歴史の中で、潜水科から潜水工業科と科名変更したのが、第一の転換期であるとす

れば、第二の転換期は水中土木科であり、第三は海洋開発科の科名変更であったと思われます。

海洋開発科は昭和63年に水中土木科を廃止し、海洋開発科として発足いたしました。

時代背景として、業界ではすでに大型プロジェクトが組み立てられており、人力による工法より機械化された先端技術工法が主流になりつつあります。

このような業界のニーズ

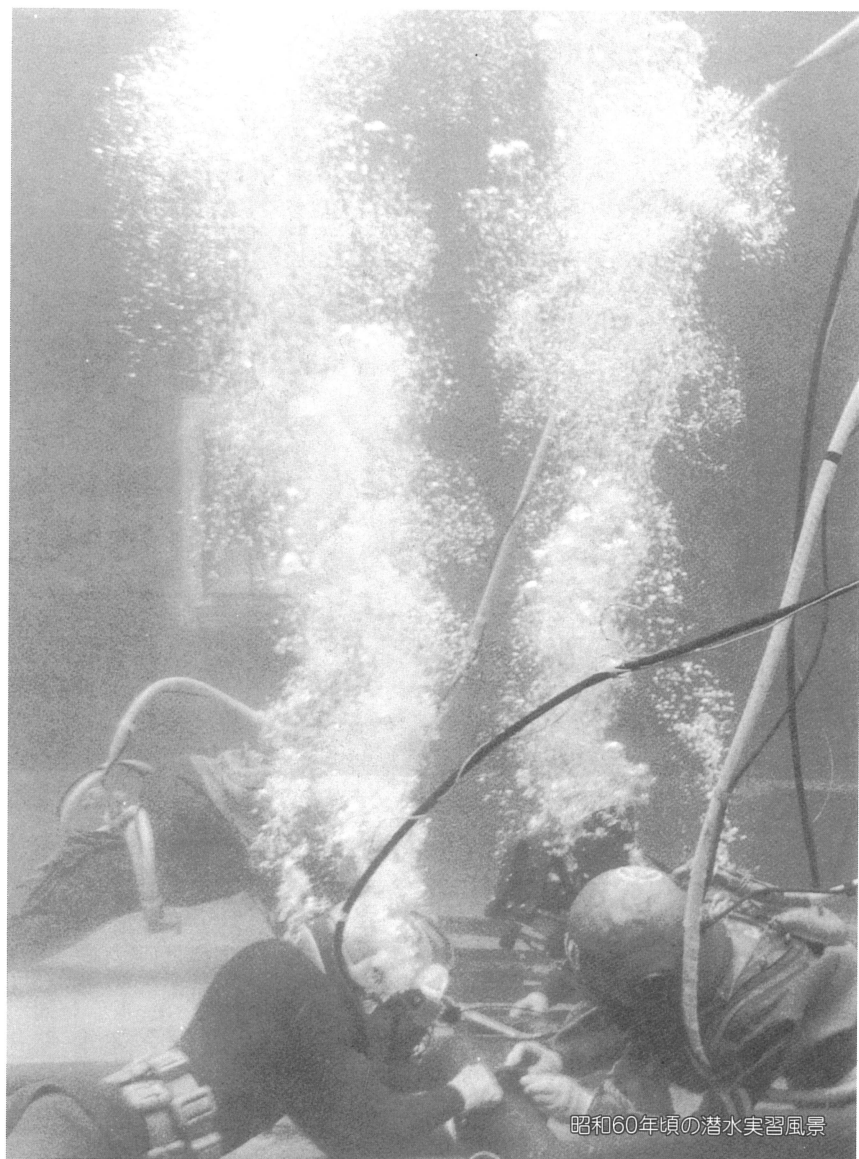
に答えるべく、近代化された産業分野に広く対応できる技術者の育成を目指すことで、その必要性が生じてきたわけです。

教育課程（工業）も大幅に変更を余儀なくされました。

新しく加えられた科目に、工業基礎、工業数理、情報技術基礎、課題研究でしょうか。

時代の趨勢といえ感無量になります。

新しい実習棟、プールも完

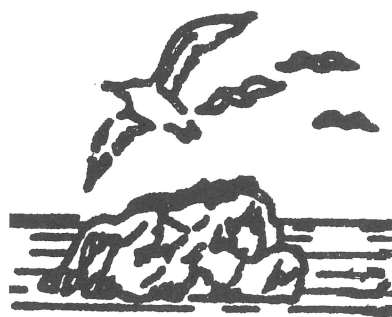


昭和60年頃の潜水実習風景

成しました。多分すばらしい環境のもとで、勉学に励んでいることと推察いたします。



氏名：岡田光也先生
 在任：S38.4～H10.3
 (35年間)
 教科：海洋開発科
 現在：種市町在住



少子化の問題で、生徒数激減は心配になりますが、要は中身の問題であろうと思われる。登下校にすれ違う種高生の目は輝いており、冒頭に書いた講演を、私語を發することなく静かに聞いていた姿が、本来の種高生の姿だと信じて疑いません。

ガンバレ！ 種市高校

<p style="text-align: center;">種市電工株式会社</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 松橋武志 (昭和44年度 普通科卒)</p> <p style="text-align: center;">〒028-7913 岩手県九戸郡種市町第25地割19番地2 TEL 0194-65-3565代 FAX 0194-65-3509</p>	<p style="text-align: center;">ご予約・お問い合わせは 便利なフリーダイヤルで ☎ 0120-703312</p> <p style="text-align: center;">— 磯料理 宿泊 — 芝亭</p> <p style="text-align: center;">八戸市鮫町字棚久保14 (種差芝生前) ☎ 0178-39-3311</p>
<p style="text-align: center;">—— 郷土の未来を拓く ——</p> <p style="text-align: center;">梨子建設株式会社</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 梨子洋一</p> <p style="text-align: center;">本社 盛岡市高松4-20-20 (0196) 61-2411 北部営業所 九戸郡種市町39-8-2 (0194) 65-5477</p>	<p>久慈市中町鎮座 巽山稲荷神社 TEL 0194-53-4086 FAX 0194-53-4120</p> <p>久慈市夏井町鎮座 若宮八幡宮 TEL 0194-53-4064</p> <p style="text-align: center;">宮司 播磨孝則 (昭和44年度 普通科卒)</p>

眼下に広がる
太平洋が仕入先です
四季を通して
新鮮な本格磯料理を
お楽しみいただけます

奮闘努力

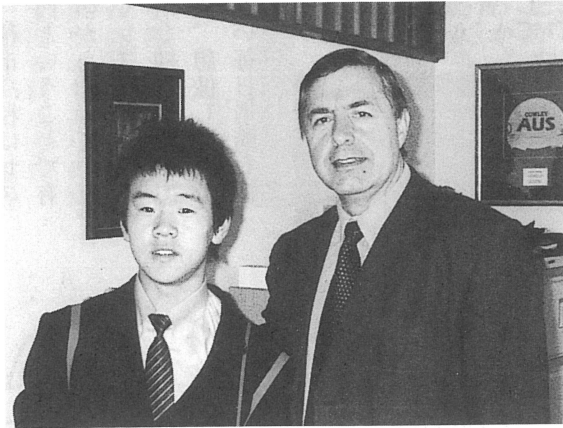
生徒の活動

世界のかげ橋

一年B組 松本敏正

スポーツで有名な、特に、私にとっては水泳のイアン・ソープがいるという印象が強いオーストラリアでスポーツの勉強をしてきました。

日本とオーストラリアの環境はやはり違っています。日本のスポーツをする環境と違って思い浮かぶのは学校の部活動でしょう。しかし、オーストラリアでは部活という概念そのものがなく、自分がしたいスポーツを地域で行うのが普通なのです。また、スポーツクラブの利用者が日本に比べ、圧倒的に多い事を知りました。利用料



が低いということもあるので、しょうが、どんな小さな町にも必ずスポーツクラブがあります。日本では利用者が限られています。オーストラリアでは、小学生位の子供から七十代の高齢者まで幅広く利用されているのです。オーストラリアでは、生涯スポーツに国家を中心として取り組んでいるようです。スポーツの環境、考え方の違いを感じました。また、

スポーツを通じて健康を保つという地域ぐるみの運動をしてゆくことの必要性を感じました。最後に今回の外国での研修は、スポーツの考え方を広げる良い機会だったと思います。また環境は違って

もスポーツを通じての心は皆同じなんだと思いました。今回学んだことを自分の町や岩手県、そして日本中に伝えていきたいと思います。たくさんの人と出会い、たくさんの方を学び、楽しい思い出と勉強になった研修でした。

書の甲子園

二年A組 小柏 一世

今回、書の甲子園で入選をいただいたとても嬉しく思っています。一年生のときも書の甲子園に出品しましたが納得のいく作品を書くことが出来ませんでした。そのことがあって余計嬉しかったです。

私は今回、篆書という文字を書きました。この文字は普段書かないような、雑な形の文字だったので難しかったです。でも一つ一つ面白い形で楽しく作品を書くことが出来たと思います。私は学校外でも書道



を習っています。そこでもやっぱり字を上手く書くことが出来たり級が上がったときが一番嬉しいです。そして私は字を書くことがとても好きです。書道をするのに字を書くことが好きだという気持ちは大切なことだと思います。書道は自分のためになると思うし、もっと上達したいのでこれからも努力して続けていきたいと思っています。

ボランティア活動

2年B組(生徒31人)は、海外支援団体の日本民際交流センターが運営するダルニー奨学金に6万円を寄付した。これは、生徒たちが1年間を通して行ったボランティア活動の成果である。総合的な学習の時間には、タイの経済状況を学びながら、プルタブ(約20キロ)や書き損じはがき(約120枚)を収集した。文化祭ではクラスが担当した食堂の益金(56,000円)を寄付にあてることにした。この活動を通し、「タイの子どもたちの進学支援をしたい」という思いのもと小さな善意を積み重ねてきた生徒たちは、ボランティア活動の充実感を得ることができた。

ガンバレ! 種市高校

<p>有限会社 ピュア企画 ノエビア類家南代理店 ラウンジ ルコニュー</p> <p>代表 向谷地 ひろ子 (昭和43年度 普通科卒)</p> <p>事務所/ 八戸市類家5丁目6の10 TEL 0178-45-8251 ルコニュー/ 八戸市六日町ライオンビル(八戸館2F) TEL 0178-43-9676</p>	<p>JOP 総合潜水工事・海洋調査測量 設計施工</p> <p>日本海洋計画株式会社</p> <p>代表取締役 横尾 嘉明</p> <p>〒234-0052 横浜市港南区笹下1丁目1番15号 TEL 045-845-3810(代) FAX 045-845-3165</p>
<p>豊かな暮らしのお手合い —— ショッピングロード ——</p> <p>フジモリ</p> <p>代表取締役 藤森 善兵衛</p> <p>九戸郡種市町23-25 ☎65-2055</p>	<p>東日本海洋建設株式会社</p> <p>営業所 〒290-0051 千葉県市原市君塚5-13-11 TEL 0436-22-5114・FAX 0436-23-2245 本社 〒290-0051 千葉県市原市君塚1-3-2 TEL 0436-22-5380</p>

三年間を ふりかえって

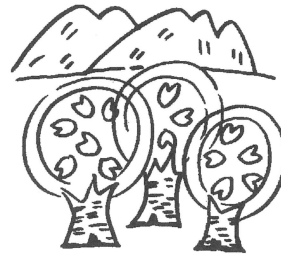
三年普通科 大井 寿 ひさし

レスリング部に入部し今までの事を振り返ってみると、この三年間というのとはとても短く感じる。種市高校はレスリングの名門ということ有名で中学の頃から知っていた。入学してすぐレスリング部に入部し華やかな練習風景を想像していたが、想像していたとは全く違い毎日過酷な練習の日々でした。

朝早くからの練習、いつもクタクタになって家に帰って来た午後の練習、連休を利用しての遠征、そしてその日々の成果が実り一昨年の新人戦では5年ぶり6度目の優勝を見事成し遂げる事ができた。高総体も新人戦に続き団体戦優勝することができた。三年生が引退したあとも後輩達

が新人戦連覇を成し遂げられた。

レスリングを通じていろんな経験を生かしながら先、社会に出てがんばっていきたいと思う。



レスリング部の精鋭たち

平成15年度

クラブ活動

— 主な記録 —

▽レスリング部

- 県高校総体 団体戦優勝
- 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 1位 表沢泰成
 - 58kg級 3位 竹高弘祐
 - 63kg級 2位 岩谷祐希
 - 68kg級 2位 金澤勝太
 - 76kg級 1位 奥寺満
 - 85kg級 2位 梨子光行
 - 120kg級 3位 伊藤諒
- 県民体育大会
 - 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 1位 表沢泰成
 - 58kg級 1位 竹高弘祐
 - 63kg級 2位 岩谷祐希
 - 76kg級 1位 金澤勝太
 - 97kg級 2位 伊藤諒
 - 120kg級 1位 奥寺満
 - 個人戦(グレコローマンスタイル)
 - 50kg級 1位 表沢泰成
 - 58kg級 1位 竹高弘祐
 - 63kg級 2位 岩谷祐希
 - 76kg級 1位 金澤勝太
 - 97kg級 2位 伊藤諒
 - 120kg級 1位 奥寺満
- 東北高校選手権大会
 - 団体戦
 - 対光星学院 6-1-1 回戦敗退
 - 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 表沢泰成 1回戦敗退
 - 63kg級 岩谷祐希 1回戦敗退
 - 68kg級 金澤勝太 1回戦敗退
 - 76kg級 奥寺満 2回戦敗退
 - 85kg級 梨子光行 1回戦敗退



全国高校総合体育大会 (長崎県)

- 団体戦
 - 対今治工業 4-3-1 回戦敗退
 - 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 表沢泰成 3回戦敗退
 - 76kg級 奥寺満 1回戦敗退
- 国民体育大会 (静岡県)
 - 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 表沢泰成 3回戦敗退
 - 76kg級 3位 金澤勝太
 - 96kg級 5位 奥寺満
 - 個人戦(グレコローマンスタイル)
 - 58kg級 竹高弘祐 2回戦敗退
- 県新人レスリング大会
 - 団体戦優勝
 - 個人戦(フリースタイル)
 - 50kg級 1位 表沢泰成
 - 55kg級 3位 新造真
 - 60kg級 2位 小松平司
 - 66kg級 1位 岩谷祐希
 - 74kg級 2位 船渡純也
 - 84kg級 2位 伊藤諒 3位 荒谷竜広
- ▽男子ソフトテニス部
 - 高校総体地区予選
 - 団体 4位
 - 県民体育大会地区予選
 - 個人戦 (ダブルス)
 - 荒津内・八嶋 (ベスト8)
- ▽女子ソフトテニス部
 - 新人戦地区予選出場
- ▽バスケットボール部
 - 高校総体地区予選 一位通過
 - 県高校総体 一回戦敗退
 - 県民地区予選 一位通過
 - 県民体育大会 ベスト16
 - 新人戦地区予選 2位通過
 - 県新人戦 ベスト16

ガンバレ! 種市高校

有限会社 溝口潜水工業

取締役社長 溝口幸政 (昭和48年度 普通科卒)

〒031-0071 青森県八戸市沼館4-5-24
電話 0178-22-5850

有限会社 八木自動車サービス

代表取締役 吹切成人 (昭和54年度 普通科卒)

〒028-7914 岩手県九戸郡種市町24-159-7
TEL 0194-65-4526 FAX 0194-65-5234

◆ビジネスに、観光に 格安のジャンボタクシー◆

三河タクシー

たのしい旅のパートナー 三河トラベルサービス

久慈市中央2丁目13番地 (株)三河交通観光 ☎53-6161

民間車検工場

車検
一般整備
各種保険

(有)水上自動車整備工場

代表取締役 水上信宏

〒028-7915 岩手県九戸郡種市町第18地割6番地の1
TEL 0194-65-2358 FAX 0194-65-4327

▽バトミントン部

高校総体地区予選

- 個人戦 (ダブルス)
 - 久保・平戸・金沢・高橋
 - 大内田・大下 (ベスト8)
- 個人戦 (シングルス)
 - 大内田真理子 4位

新人戦地区予選

- 団体戦 3位通過
- 個人戦 (ダブルス)
 - 岩脇・小森 3位通過
 - 高屋敷・続石
 - 安藤・玉澤 (ベスト8)
- 個人戦 (シングルス)
 - 岩脇昌子、玉澤寛子、小森紘枝 (ベスト8)

県新人戦

- 団体戦 2-3 大東
- 個人戦 (ダブルス)
 - 岩脇・小森 0-2 花泉

▽男子バレーボール部

高校総体地区予選 2位

- 新人戦地区予選 2位通過
 - 0-2 久慈・2-0 工業
 - 2-0 農林
- 県新人戦 ベスト16
 - 春高バレー 岩手県予選出場

▽女子バレーボール部

新人戦地区予選 4位通過

県新人戦出場

▽野球部

- 春季地区予選出場
- 選手権大会出場
- 秋季地区予選出場

▽卓球同好会

県民体育大会地区予選

- 野口竜弥 7位
- 県民体育大会
 - 野口竜弥 2回戦敗退
- 新人戦地区予選
 - 団体戦 2位
 - 個人戦
 - 大宮雄輔 4位
 - 野口竜弥 6位

県新人戦

- 団体戦 2回戦敗退
- 個人戦
 - 大宮雄輔、野口竜弥 1回戦敗退
- 久慈市近郊卓球大会
 - 団体戦 3位
 - 個人戦 野口竜弥 3位

▽陸上競技同好会

県高校総体

- 100m 大湊健司 (県大会出場)
- 200m・400m 久慈健一 (シ)
- 800m・1500m 中目悠 (シ)
- 走り幅跳び 山田修大 (シ)
- 4x400R
 - 久慈・上大澤・中目・毛糠 (シ)

県民体育大会

- 100m 大湊健司 (準決勝進出)
- 400m 久慈健一 (シ)
- 800m 中目悠 (シ)
- 県新人戦
 - 800m 中目悠 (県大会決勝6位入賞)
 - 1500m 中目悠 (県大会決勝7位)
- やり投げ・砲丸投げ
 - 坂澤勝寛 (県大会出場)
- 走り幅跳び 山田修大 (シ)
- やり投げ 眞下信幸 (シ)
- 400m・やり投げ 安藤尊 (シ)
- 砲丸投げ 吹切清 (シ)
- 走り高跳び 斉藤香子 (シ)

4x400R

上大澤・坂澤・毛糠・安藤 (シ)



▽家庭クラブ

岩手県高等学校家庭クラブ連盟

- 久慈地区研究発表大会
 - 学校家庭クラブの部 優秀賞
 - 「海と共に生きる」
 - 「水環境を考える」
- ホームプロジェクトの部 優秀賞
 - 「我が家は災害対策本部」

表沢英美

▽吹奏楽部

アンサンブルコンテスト

- 久慈地区大会
 - サックス四重奏 銀賞
 - 管打四重奏 銅賞

▽工業クラブ

岩手県高等学校工業クラブ連盟

- 研究発表の部 優秀賞
 - 「水中発光ブイの製作」



平成15年度 進路決定状況

(H16.2.12現在)

- ◇進学決定率◇ 79%
- ◇就職内定率◇ 88%
- (普通科78%、海洋100%)

進路状況

就職については、いまだ厳しい状況が続いていることは、新聞・ニュースにも取り上げられており皆様ご承知のことと思います。

しかし、種市高校においては上述に示す通り、非常に高い就職率となっております。また日々の学習、課外活動等にも積極的に取り組み、進学に向けても頑張っております。

この会報をご覧になっている皆様、種市高校は進学に就職に素晴らしい人間育成の場です。

来たれ！種市高校へ！

ガンバレ！種市高校

(ご協賛掲載50音順)

ウニ専門卸・全国発送
有限会社 横道海産
 代表取締役 横道 勉 (昭和28年度 潜水科卒)
 岩手県九戸郡種市町23-128-10 TEL 0194-65-5251

八木郵便局
 局長 石橋 勝彦 (昭和53年度 普通科卒)
 〒028-7903 岩手県九戸郡種市町1-57-2
 TEL 0194-67-2103

里見印刷
 〒028-7914 岩手県九戸郡種市町第22地割129番地80
 TEL 0194-65-2653・4240 FAX 0194-65-2653

一級建築士事務所・測量・土地建物登記・建設業許可
山田建築設計事務所
 代表 山田 尚幸
 〒028-7915 岩手県九戸郡種市町緑町
 TEL 0194-65-4593 FAX 0194-65-5512

平成14年度 同窓会収支決算報告

1 収 入 (単位 円)

項 目	本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額	比 較 増 減		摘 要
			増	減	
1. 繰 越 金	809,174	809,174			前年度繰越金
2. 会 費	445,500	460,050	14,550		3067件×150円
3. 年 会 費	325,000	280,000		45,000	280件
4. 協 賛 金	270,000	300,000	30,000		頑張れ種市高校(28団体より)
5. 雑 収 入	326	19		307	銀行利息
合 計	1,850,000	1,849,243	44,550	45,307	

2 支 出

項 目	本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額	比 較 増 減		摘 要
			増	減	
1. 事 務 費	20,000	16,555		3,445	ラベルシール
2. 通 信 費	40,000	44,070	4,070		諸会議案内(切手、はがき代)
3. 印 刷 費	0	0			
4. 会 報 費	500,000	540,950	40,950		会報印刷(4500部)、会報送数(3490部)
5. 会 議 費	50,000	60,931	10,931		役員会、各委員会
6. 旅 費	100,000	103,581	3,581		東京支部総会(3名)
7. 事務局手当	30,000	30,000			
8. 支部援助費	150,000	150,000			東京・八戸支部・久慈支部
9. 卒業記念費	50,000	40,480		9,520	卒業証書入れ筒
10. 交 際 費	20,000	34,785	14,785		職員歓迎会、送別会、弔電等
11. 振込み手数料	20,000	15,090		4,910	年会費振込み手数料
12. 雑 費	30,000	33,988	3,988		卒業アルバム、会報発送準備
13. 予 備 費	840,000	0		840,000	
合 計	1,850,000	1,070,430	78,350	857,875	

3 差引残高 (収入) 1,849,243円 - (支出) 1,070,430円 = 778,813円 (次年度へ繰り越し)

平成16年度予定

《同窓会総会》

日時 平成16年5月22日(土) 17:30~
会場 「割烹 おおた」

《久慈支部総会》

日時 平成16年6月11日(金) 18:30~
会場 「ロイヤルパーク 川崎」

《東京支部総会》

日時 平成16年6月26日(土) 17:00~
会場 「浅草ビューホテル」

《八戸支部総会》

日時 平成16年7月9日(金) 18:30~
会場 「芝亭口一丁店」

会員の活躍情報をお寄せください

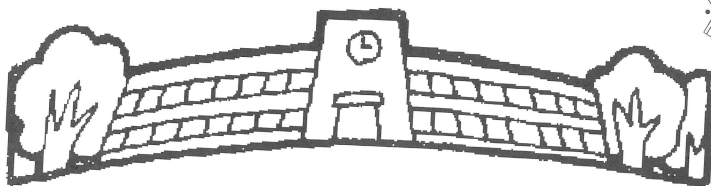
同窓会員で活躍されている方について、情報をお寄せください。

全国各地で活躍されている方々を同窓会編集委員が取材し、会報を通じて紹介していきたいと思えます。

また、会員の活動の案内など掲示板的な感覚で情報をお寄せいただいても結構です。

自薦他薦を問いません。お気軽に情報をお寄せください。

また、その他この会報にて掲載してほしい記事、「あの先生は今」で取上げてほしい先生などありましたら編集委員までご一報ください。



事務局からのお願い

同窓会費の納入について

同窓会の運営は、会員の皆様からご協力いただいております。年1回の発行で賄われています。この会報につきまして、多くの費用を必要としております。年1回の発行ではありますが、全国で活躍されている会員の皆様と母校とを結ぶ掛橋として継続発刊し、でき

るだけ多くの会員の皆様のお手元に届けていきたいと考えております。ところが、同窓会の運営の確保が苦しい状況にあり、思ったような活動ができない現状にあります。つきましては会員皆様の絶大なご協力を賜りたく、会費納付についてご案内申し上げます。

会費 一、〇〇〇円/年

右記会費の納付には、同封の振込用紙をご利用ください。(振り込み料は、本会の負担となっております)

また、総会・支部総会の際にも受付けております。

ご協力お願いいたします。

同窓会総務委員会財務担当

編集後記

水中写真家の中村征夫氏が種高を訪れました。中村氏が雑誌「マリンドイビング」の記者として、当時の水中土木科の取材に訪れて以来、20年ぶりの事です。当時は無名に近かった氏の、その後の活動は目覚ましく、世界中の海のみならず、一時はテレビドラマでも活躍していました。編集子も卒業以来、些かの経験を積み、再び中村氏にお会いして、感じた事があります。それは母校の先輩方にも相通する、潜水を職業として幾多の困難を乗り越え、第一線で活動を続けておられる方々に特有の雰囲気でした。同窓生の皆さんの活動の場は多岐にわたりますが、それぞれの分野で健康に気を付け、年輪を重ねて行きたいものです。

(磯)